



手のエコちから発信

環パいの エコアクション

うちエコ診断 事業

「気づきから行動へ」をモットーに、家庭部門での地球温暖化防止対策を推進するための取組として今年度から実施している「うちエコ診断」事業は、新たに全国統一基準で診断員となられた7人の方々により精力的に進められております。



今年度の診断目標は100件でしたが、目標を大きく上回り、最終的に134件の診断件数となりました。ご協力くださったご家庭、診断員の皆様に心より感謝申し上げます。



いわてBDF 利用拡大 プロジェクト



「活動の全体像」

いわてバイオディーゼル燃料ネットワークは、バイオディーゼル燃料を製造している岩手県内の福祉施設・事業者が集まり、支え合って活動しています。

これらの取り組みを推し進めるために、H23年度環境省の補助事業に申請し、廃食油の回収量を増やすことでBDFの増産を進め、またBDF利用を増やす事で需要を喚起し、これらのサイクル全体の規模を拡大することで、温室効果ガスの削減を行うことを目指して、今年度、NPO団体、商工団体、生協、研究者らによりコンソーシアムを組織して取り組んでいます。

また、この事業に連動して、IBC岩手放送がメディア連携事業として採択され、活動を活性化する動きが高まっています。

事業推進委員会

活発な議論と実践的な場！

コンソーシアムのメンバーが集まり、事業を最大限効果的に実施をするために、課題を共有し、有識者からの活動への助言と指導を得ながら、活発に活動しています。

1月までに5回開催して、東北農業研究センターや岩手大学地域連携推進センターの研究者からもご講義いただきました。

BDF実践セミナー

より多くの応援団を！

一般の方はもとより、地球温暖化防止活動推進員の方々の参加により、BDFの取り組みの最前線の情報を知ってもらうことで、地域での応援団を増やしていきます。

1月18日には宮城県の、2月15日には青森県の取り組みなど、県外の事例を紹介いただきます。

BDF利用拡大フォーラム

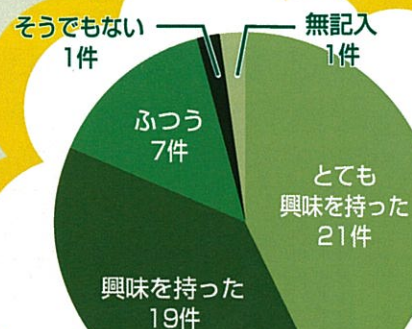
基調講演：「バイオディーゼル燃料の現状と課題」
講師：富山BDF(株) 取締役 石黒久雄氏

富山から地球へやさしさ満タンに！熱い講演でした！

BDFは、二酸化炭素削減のための代替エネルギーで、これからの地球はできるだけ化石燃料を使わないことが求められ、植物由来の循環エネルギーとしてBDFの役割が期待される。脂肪酸メチルエステルではなく、軽油そのものを製造する事を目指しており、BDFは廃プラと生ごみから精製したい。

東北各県からの参加もあり、アンケートからも一歩踏み込んだ反応が得られました。

基調講演アンケート 「BDFの現状と課題」はいかがでしたか。





BDFでコンバイン刈り取りする田んぼ



宮古港でのBDF給油



BDFを使った重機によるガレキ処理

実証実験

農業分野、災害復興の現場でBDFが活躍してます！

- 1 農業分野および建設業での BDF 使用実験
 - (1) 野菜生産組合 (岩手町) 390ℓ
 - (2) 農業法人 (奥州市江刺区) 400ℓ
 - (3) 建設業協会 ガレキ処理重機 (宮古市) 2,000ℓ
- 2 評価：良好
- 3 その他
 - (4) 競馬組合 (盛岡市) 200ℓ
冬期間での利用実験中

BDFキャラバン

県内各地で廃食油回収



- 1 アテルイ地産池消フェスタ
- 2 IBCまつり in 小岩井農場
- 3 一関COLZA地産池消まつり
- 4 トリコロールフェスタ in なにゃーと

4つのイベントを通じて、ペットボトル
500mlで、292本集まりました。



アテルイ
地産池消フェスタ



IBCまつり



廃食油が続々！



二戸クリーンセンター

BDF施設見学会

青森の農業高校生の視察

他県との交流で、自治体と連携している二戸地域の取り組みを紹介し、実際に作っている施設、BDFを使っている施設を見学しました。



阿要清掃センターでのBDF製造プラント



佐々木(明) 記



団体訪問

エコ・ハウスコンテストいわて



団体+岩手県

訪問日 平成23年12月7日
 訪問先 エコ・ハウスコンテストいわて
 事務所兼自宅
 所在地 盛岡市大新18-13
 取材協力 事務局長 長土居正弘氏



長土居 正弘 さん

自宅兼事務所を訪問して驚いたことは小春日和を感じさせる穏やかな部屋の温度。又地下室に事務所と設備機械室があり、機械室はむしろ暖かい位でここにはデスクワークがある。実に居心地がよい。

年間の暖房費5~6万?

この建物は平成元年竣工、一冬の暖房費は5~6万円、必要暖房期間は、24時間暖房をつけっぱなし。温水パネルヒータを使用したセントラルヒーティングで、夜間と不在の時は25度の温水を循環させ日中は天候に合わせて30~36度程度の温水温度に設定している。事務局長の長土居さんが活動のテーマにしていることは、「冬でも素足、年金生活者の味方に！」

「エコ・ハウスコンテストいわて」とは?

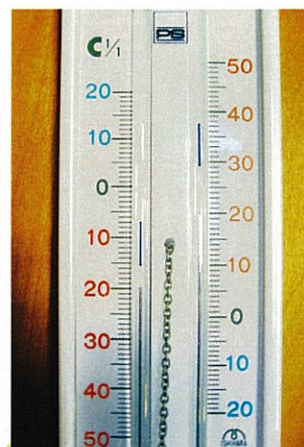
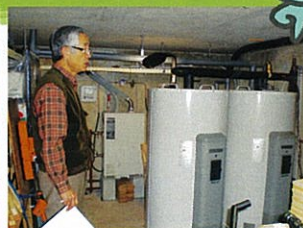
活動経緯

岩手県が主催していた、省エネ・新エネ住宅大賞という表彰制度が平成15~17年の3年間実施され、その事業を引き継ぐ形で岩手県と共催で平成18年から「エコ・ハウスコンテストいわて」として活動をしている。エコハウスの認定戸数は173戸、大賞は13戸に及ぶ。

部屋

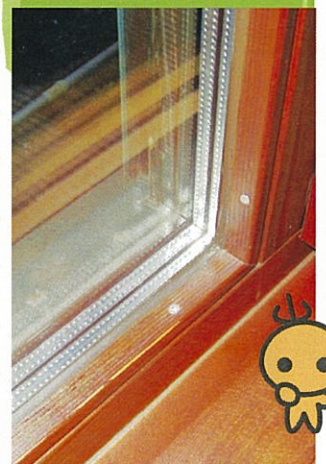


地下



竣工当時からリセットしていない最低最高温度計を見ると、冬は16℃以下に下がらず。夏は29℃以上になっています。3.11もしっかりクリアしています。

窓は木製サッシの3重ガラス
 当時のモノにはアルゴンガスは封入されていません。



取材担当 渡邊



三陸エコビジョンフォーラム2011



震災以来、被災者の生活支援を行うべく多くの人たちが、全国から遠野市に駆けつけ「NPO法人遠野まごころネットワーク」（2011年7月27日認可、理事長佐藤正市）ができた。行政の復興支援に加え、被災した環ぱい会員からの呼びかけもあり、環境学習交流センターは当初からこの活動に協力してきた。11月理事会で環ぱいが遠野まごころネットワークへ加入を決めた背景である。

この運動体が次々と企画を立て実行に移したものが「三陸エコビジョンフォーラム2011」12月10日と翌11日であった。

実行委員会の委員長は由井正敏県立大学名誉教授。由井氏は本邦の貴重な大型猛禽類イヌワシの研究者として有名で、東北地域環境計画研究会会長をされておられるが、広い見識と交友を有する逸材とお見受けする。



なぜならば、このイベントに先駆けて、まず9月4日に牡蠣の養殖業家畠山重篤^{しげあつ}氏の特別講演ほかを、次いで11月23日に第2弾として、自然エネルギーをテーマに鎌仲ひとみさん（映画監督）、田村満氏（陸前高田市）、飯田哲也氏（環境エネルギー政策研究所）らを招いて講演会開催に導いてきているからである。

フォーラム第1日目は、首藤伸夫東北大学名誉教授が「大津波対策と集落のあり方」、勝川俊雄三重大学水産資源学部准教授が「漁港施設の復旧土木工事では漁業振興はない」、糸長浩司日大生物資源科学部教授は、実際のエコビレッジを紹介し、さらに韓国からリムキョンス氏もエコビレッジが三陸の集落再生にどう適しているかをリレートークで語った。

午後は、由井実行委員長の司会でパネルディスカッション「持続可能な三陸の復興ビジョン」、2日目はさらに分科会で討議を深める濃い内容だった。

講師の顔ぶれが三重、鹿児島、そして韓国と「恐れ入りました」というだけでなく、被災地からのバス送迎など細やかな配慮がなされていた。

三井物産環境資金などの援助を受けたと紹介されたが、本田遠野市長や上野岩手県復興局長らも、オピニオンリーダーの育成につながるこのような企画は有意義であると賞賛された。

取材担当 中屋



ねいんぼろ大作戦

活動報告

アクリル
たわし

目的

アクリルたわしの普及、
被災地支援事業



4月26日 大槌白澤伝承館(避難所)センタースタッフ...センターボランティア&環バイ関係者

センターボランティア作成木の葉のたわし&被災地の方々作成お魚たわしをセットにして販売し、売り上げは、全額被災地で作っていただいたの方々および関係者へお贈りしています。



12月20日 陸前高田市米崎中仮設住宅集会所

◎アクリルたわしは、合成洗剤を使わないもしくは、少なくてすむので、きれいな川、海を守ることにつながります。

◎被災地の人たちは、編み物をする事で、気持ちが穏やかなり、物をつくりあげることの充実感や時間をみんなで共有できる楽しさが得られます。そして、作ったものが換金されることで、ちょっとだけ、収入を得る喜びが味わえます。

◎センターボランティアの人たちは、被災地の人になにかお手伝いしたい思いを、形にできます。



9月15日 宮古水産高校グランド仮設住宅集会所



7月6日 雫石プリンスホテル(避難所)

開催報告

避難所(大槌3回、山田1回、盛岡4回)
仮設住宅(宮古4回、野田1回、陸前高田2回)
その他(遠野4回、盛岡1回、奥州1回)
で計17回「たわし講座」を開催した。

この事業を支援していただいた皆様、ボランティアの皆様に感謝申し上げます。とともに、引き続きのご支援を、お願いいたします。

田近 記



岩手県民情報交流センター（アイーナ）を会場に、毎月第2木曜日の夜に開催してきた「アイーナ夜学（以後、夜学と略）」は、平成24年1月で69回目となりました。

夜学は、平成17年の市民提案「昭和100年プロジェクト」をきっかけに開催したもので、昭和100年（2025年）の地域づくりをめざして活動を開始しました。

「こんな地域にしたい」という議論は、現在、スマートシティ構想や震災復興分野で盛んに行われていますが、環境分野ではバックキャスティングと呼ばれる活動になります。

夜学では、「ハカローくん」の開発をはじめ、住宅や街作りの提言活動を行ってきました。現在は、食を中心とした被災地ビジネスの検討を行っています。

■ハカローくんの使い方



平成18年10月 県環境保険研究センター公開

② 地球1個分=米 約2.5kg
に対応させています

- ①生活習慣をもとに、米の量を決め、袋に加えています。
- ②「地球1個分の生活の重さ」かどうか、測ります。
- ③「約束シート」に記入して米を戻します。最後にもう一度、計測します。



佐藤(清) 記

つけもの研究会

地球一個分の暮らしの中で「食生活」を意識しながら、地産地消=被災地ビジネスを準備中。

内陸と沿岸とで同時に活動していく場を進めています。後には、高齢者の拠点づくりまで、広げていきたいという思いを含めた展開を考え、現在「つけもの研究会」を展開中。



数あるメニューの中から、「つけもの」に的をしばったのは「地元の食材を利用して、保存食として、いつまでも、おいしく食べられるメニュー」という点を意識してのこと。



試食メニュー

現在、準備段階として、漬物作りの実技や日本のさまざまな漬物の試食をとおして方策を検討中。



たくあん、奈良漬、福神漬、ころがき、きんかん…などを試食。

今後は

夜学の間を活かした活動を外部に広げていく予定であり、全国的な交流を目指して他県との交流も進めていきたいと考えております。



佐藤(澄) 記

会員だより

マイバッグを持ち歩こう

3R推進フォーラム

日時：2月6日（月）13：30～15：30

場所：盛岡市総合福祉センター

①レジ袋削減はどこまで本気？ 13：35～14：30

コーディネーター

◎高橋 求氏（岩手県地球温暖化防止活動推進員）

パネリスト

◎伊藤 慶子氏（岩手県消費者団体連絡協議会）

◎鈴木 茂伸氏（イオンリテール（株）東北カンパニー）

◎吉田 将次氏（盛岡市きれいなまち推進協議会）

◎千葉 芳幸氏（盛岡市環境部長）

②マイバッグコンテスト表彰式 14：35～15：00

③風呂敷講座 15：00～15：20



学びからやさしい未来を 土日環境学習講座 Part 3

時間 13：30～15：00

2月 4日（土）放射能汚染の東日本に生きる～
いま、福島から伝えたいこと

講師：大賀 あや子（福島県大熊町から会津若松市に避難在住、ヒロアクション福島原発40年実行委員）

会場：アイーナ6階（団体活動室）

定員：50人（要申込）

共催：岩手県男女共同参画センター

2月12日（日） 夢灯り作り講座

講師：小赤澤 直子（岩手県環境アドバイザー）

会場：アイーナ5階環境学習交流センター

定員：20人（要申込）

材料費：500円

2月26日（日） 気功で健康に～お話と実技

講師：◎畠山 節子（内養功普及員）◎内館 郁子（内養功普及員、香功普及員）◎高橋 利一（内養功普及員、香功普及員）

会場：アイーナ5階環境学習交流センター

3月10日（日） 自然っていいな
～山で遭難しないために

講師：小野寺 恵喜（盛岡駅前交番のおまわりさん）

会場：アイーナ5階環境学習交流センター

問合先：環境学習交流センター Mail：eco@aiina.jp

TEL 019-606-1752 FAX 019-606-1753



原発はなぜ危ないか（仮称）

講師：安斎 育郎氏（立命館大学名誉教授）

日時：2月17日（金）10：30～12：30

場所：サンビル7Fホール

原発そのものの危険性や、今回の事故の放射能の影響が子どもたちや社会にどう表れてくるか放射線予防の立場から詳しくお話頂きます。

問合先：いわて生協組織本部 019-603-8299

わたしの一言

「環境問題は地球のために」といわれることがある。けれど、地球そのものはそれほど動揺していないように思える。

実は、エゴを中心として生きている人間に降りかかってくる問題。地球そのものは、温暖化になろうとさまざまな汚染がふりかかろうと、悠久の時間の中で自浄されていく。

そのスパンは人間の尺度では推し量ることはできない。悠久の流れについていけないの

が人間。自分自身で原因を作っておきながら、自浄される前に影響を受けて慌ている。

土・水・空気をはじめとする全てのものはめぐり巡って自分にかえてくるのだから、環境に負荷をかけない生き方を見つめなければならないはずなのに…。「自然」の中に敬虔に、真摯に耳を傾けてこそ、人間本来の生き方が見えてくる。

坂下 洋子



編集 後記

会員の皆様へ 昨年の未曾有の震災から10か月、復興復旧はこれからが本番。仮設住宅にお住まいの方々は、寒さが半端ではないと聞いております。私たち環パいも3.11を機に微力ながら組織で出来ることを支援してまいりました。これからも継続的に支援をさせていただくと同時にニュースレターを通して皆さんのお声も反映してまいりたいと思いますのでご協力お願いいたします。

発行：NPO法人 環境パートナーシップいわて

事務局〒020-0124 盛岡市厨川5-8-6 TEL:019-681-1904(直通) FAX:019-681-1906

e-mail kanpai@utopia.ocn.ne.jp

環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センター

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1 岩手県民情報交流センター・アイーナ5F

TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753